

季節のことば

緑の週間、緑の羽根。昔の霞に包まれた記憶ですが今も健在なのでしょう。新しいところでは「みどりの日」。昭和天皇の誕生日を冠した国民休日としてゴールデンウィークの開幕を告げます。都会の会社員には緑遠いけれど、茶摘みは八十八夜のあと二週間くらい行なわれるの

だそうです。これがいわゆる一番茶で最上上品。二番茶は六月下旬、三番茶は八月に摘まれます。一般に「茶摘み」といえば一番茶の光景でしょう。春風を浴び、菅笠に赤だすきの女性風俗も今では観光のやらせ以外に見られないかもしれませんが、ちょっと見たいですねえ。

三笠NEWS

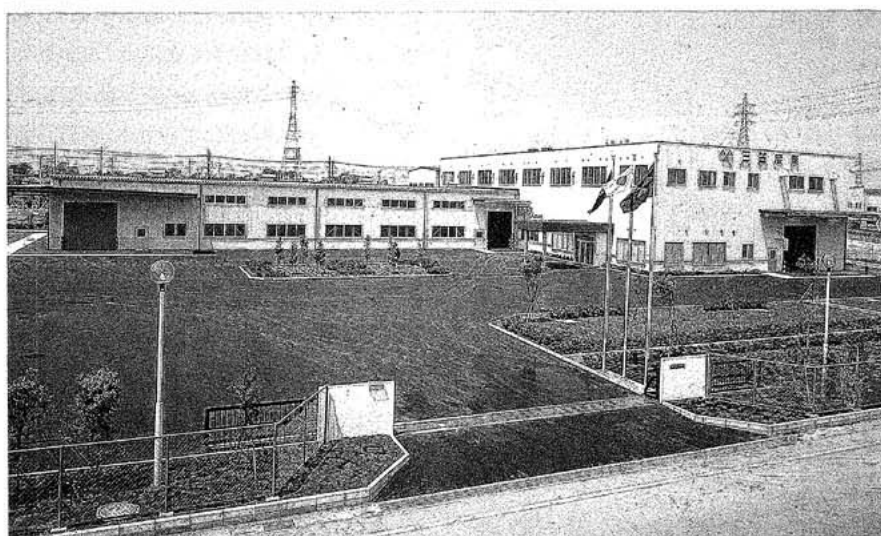
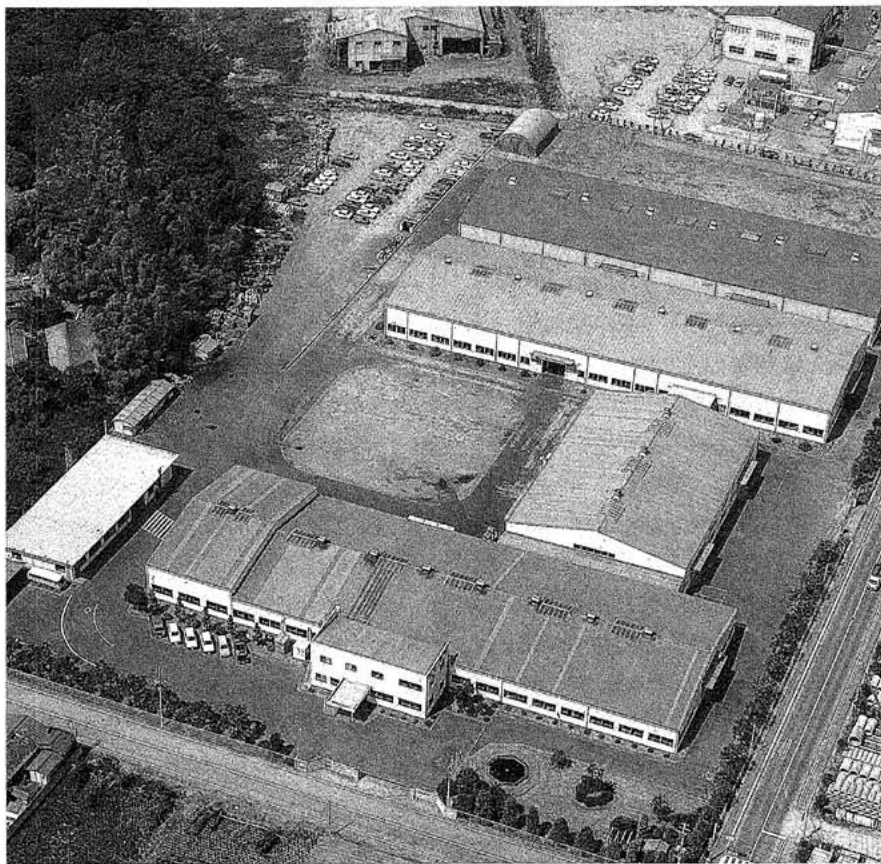
三笠ニュース

PR旬報/年4回発行

発行所 三笠産業株式会社

郵便番号101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-3
電話03(3292)1411大代表 ファックス03(3233)0530

ISO 9002 館林工場・春日部工場 認証を取得!!



平成9年9月、ISO認証取得のためワーキンググループを結成し、ほぼ1ヵ年にわたって弊社2工場（館林工場/春日部工場）が生産している建設機械製造全般にわたっての国際標準化や文章化を進めてきましたが、平成11年2月1日付で、国際品質管理・保証規格「ISO9002」の認証を取得しました。審査機関は、電気安全環境研究所（JET）で認証番号は、JET-0154です。

ISO規格（International Organization for Standardization）は、国際標準化機構により制定された品質保証の規格で、製品の品質システムが確立されていることを第三者機関の評価を受け、登録することであると同時に国際規格であります。その認証取得のねらいは、

- 1、企業体質の強化
- 2、国際化時代への対応力の強化

にあります。真の自主経営の確立を目標に館林/春日部両工場を一体化した生産システムの合理化を行い品質保証

体制を整え、原価低減に努め、競争他社をリードすることを目標に実施しました。

今回は、一連の国際規格のうち工場が主体となるISO-9002（製造における品質保証モデル）を対象として認証を取得しましたが、引き続きISO-9001（設計、開発における品質保証モデル）を伴う認証取得準備も進めています。

ISOの規格は、他の機関と違って認証を取得すればそれで終わりといったものではありません。取得後も品質システムの維持改善が実際に行われているかどうか1年に二回の内部品質監査（両工場の監査員が相互監査す

る）並びに外部品質監査（審査登録機関が行う審査）が義務付けられていると同時に3年毎に更新審査があります。

わが社の主力製品でありますタンピングランマーは、1968年から品質保証制度を採用し、信頼を得ておりますが、今回のISO認証取得に伴い、その趣旨でもあります個人個人が蓄積してきた技術を文章化することで、生産現場で最も高い技術を多くの人々が共有化することにより、品質安定化を計り、更なる磨きをかけて参る所存です。

わが社の品質方針のキャッチフレーズである「お客様が喜ぶ製品を生み出



このところ会社往復車中の楽しみに池波正太郎の小説『剣客商売』がある。知らぬ間に全十六冊を読み終えようとする今、いささかの感慨にふけた。巻子を閉じるのが惜しいのである。主人公の秋山小兵衛は六十才の隠居みたいな老人だが、これが何と無類に強い剣客。あざやかなお手並みで無法者を退治するけれど、少しもギラギラしたところがなく恬淡としている。しかしあのほうはまだ現役で四十も年下の若い女おはると暮らしている。時代は江戸の中期、田沼意次が健在の頃…。剣の達人であり人生の達人でもある秋山小兵衛の日常と活躍に、私は見事はまったらしい。そして今は亡き作家池波正太郎にも…。

こんなふうに言うとこれまで本欄でフランス詩だの映画や美術やオペラなどと吹聴した手前、おや?と思われるかも知れない。しかし私は昔から、いわゆる大衆文学にも夢中になった読者だから今『剣客商売』にはまっても少しも不思議ではない。ただこのごろ、ちょっと様子が変わったなと思うことがある。たとえば以前あれほど熱中する事が出来たオペラや交響楽なのに、今は体力の消耗を感じるようになった。ところが池波正太郎はいくら読み続けても疲れない。作品のみならず作家の人柄にまで引き込まれて尽きない。これはどういうことだろうか。

「大衆」という言葉も文字も今は古色蒼然として意味すら曖昧になっているが、かつては文化度を左右したキーワードだった。西洋かぶれの青年には「大衆もの」を読み聞きするのを恥じる傾向すらあった。「大衆もの」を軽視しようとした文化は、大正・昭和の時代が生んだあやまちではなかったか。そう考えながら、私は疲労どころか快適な活力を沸かせてくれる『剣客商売』を今朝も車中で読み耽って来た。

す力は、私達の未来を築く」をモットーに全従業員が団結して、その目標に向かって邁進して行きます。

軽量型が新登場!!

MRH-500D/DS振動ローラー

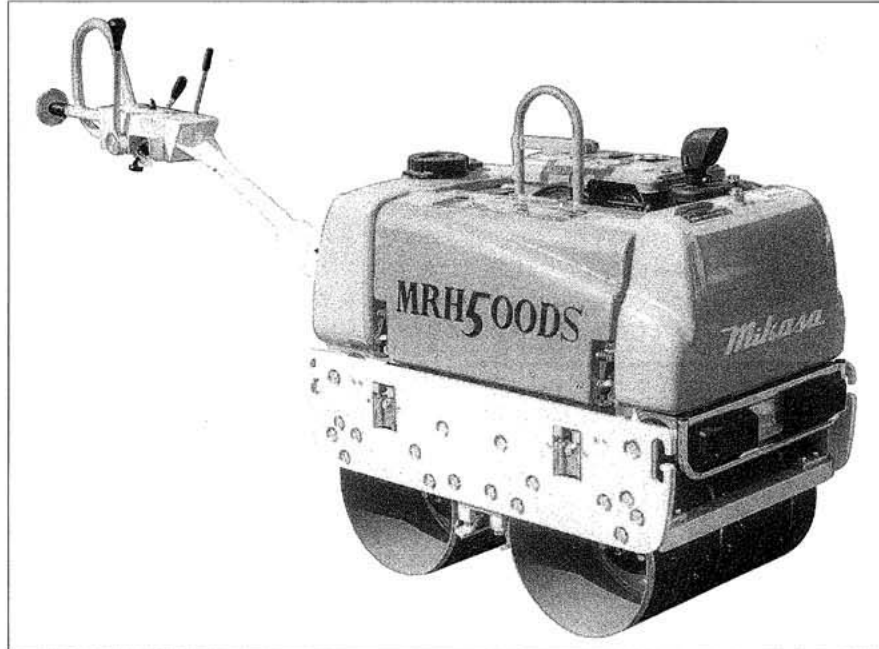
ご好評を頂いておりますMRH-600/700型振動ローラーに新たに軽量型のMRH-500型振動ローラーが加わりましたので、紹介させていただきます。このMRH-500型振動ローラーは、MRH-600/700と同様に駆動方法を油圧トランスミッションと油圧モーターの組み合わせによる油圧方式を採用し、走行の確実さとメンテナンス性が向上しています。駐停車時に必要な機械式駐車ブレーキも装備しております。振動方式は、一軸偏心で、振動数：毎分3300回、遠心力：835キログラム

型 式	MRH-500DS	MRH-500D
機体寸法 (mm)		
全長(作業者時)	2,345	2,345
(格納時)	1,270	1,270
全高(作業者時)	1,170	1,170
(格納時)	1,845	1,845
全幅	617	617
軸距	500	500
軸間幅	575	575
カーブクリアランス	218	218
ウォールクリアランス	21	21
ドラム寸法 (mm)		
外径	355	355
幅	575	575
質量(kg)		
総質量	590	570
乾燥質量	525	505
性能		
走行速度(前後)km/h	0~3	0~3
登坂能力(度)	20	20
振動数(rpm)/(Hz)	3,300/55	3,300/55
遠心力(kgf)/(kN)	835/8.2	835/8.2
水タンク容量(リットル)	30	30
オイルタンク容量(リットル)	22	22
原動機 (エンジン)		
型式	NFAD6-EKMK1	NFAD6-EKMK1
最大出力 (PS)(kW)	6PS/2,500rpm (4.4kW/2,500min ⁻¹)	6PS/2,500rpm (4.4kW/2,500min ⁻¹)
始動方法	セル/クラック	クラック
原動機 (クボタ)		
型式	E75-NB3-M-4	E75-N-M-4
最大出力 (PS)(kW)	6.3PS/2,500rpm (4.63kW/2,500min ⁻¹)	6.3PS/2,500rpm (4.63kW/2,500min ⁻¹)
始動方法	セル/クラック	クラック

ムの起振体を搭載しております。起振体の潤滑はオイルバス方式の採用で、メンテナンスが非常に楽になっております。

搭載するエンジンは、MRH-500DがヤンマーNFAD6またはクボタE75-N、MRH-500DSがヤンマーNFAD6-EKまたはクボタE75-NBとなっております。また、電動スタート式には、MRH-600DS/700DS同様に、走行レバーが停止位置以外ではエンジンが掛からないセーフティスタータースイッチを装備し、エンジン始動時の危険を防止しております。

クラックスタート及び電動スタートの両エンジン共、前照灯を装備し、日没後の作業が大変楽になりました。また、日中の作業でも点灯しておけば他の作業員への危険防止となります。機体前部の左右には、前照灯の保護、そしてトラックへの積載時等、機体を寄せる時に相手を傷つけないようにゴム製のバンパーを標準装備しております。



水タンクは、MRH-600/700同様に樹脂製でサビの心配は全くありません。水の出口にはストレーナーを装備し、散水管のゴミ詰まりを防止しております。また、散水管の掃除が容易に出来るように、散水管の脱着はワンタッチ式です。

センターカバーもMRH-600/700同様に樹脂製で、日常点検が簡単に出来るように、ワンタッチで開くボンネット型になっております。車体両側面の出っ張り、即ちウォールクリアランスは、MRH-600/700同様に21mmで

す。機体両側の形状もくさび形としたので、機体前端が良く見え壁際作業が楽になりました。また、カーブクリアランスは、MRH-600同様218mmと大きく縁石作業がギリギリまで行なえます。車体中央にある一点吊りフックは、バランスが良く、積み込み積み降ろしに便利です。

以上のように、MRH-600/700振動ローラー同様、数々の優れた特徴を持っておりますMRH-500振動ローラーを是非御愛用いただけますようお願い申し上げます。

ARA ラスベガス旅行記...

成田からのJAL直行便で早朝ラスベガスに到着した。初めてのラスベガスに胸を踊らせ空港を出たが、意外に暖かい。持ってきたコートが急に重く感じ始めた。宿泊は、ラスベガスヒルトンホテル。軍資金は出張費の現金を当てよう。ホテル代はカードで精算すればいいなと心に決めた。

ホテルにチェックインして、いざ勝負と行きたいところだが、まずは腹ごしらえから始める事にしよう。バーガーサンドにかぶりついていると、ミニスカートの女性の「キノ、キノ」の声が通路に響き渡る。「あれか!」と思いながら、心が騒ぐ。ふとテーブルの上を眺めると、キノの台紙とペンが置いてあるではないか。まずは一発運だめしと。早く、ポケットから5ドル札を取り出し、帰っておいでと念じながら、彼女に手渡す。腹ごしらえが済む間もなく、近くのモニターにキノの当たり番号が吐き出されていく。1個、2個、3個えーと6個か、何々6個。当たってるじゃないの。2倍の10ドルゲット。幸先がいい。あつと言う間に小遣いが増えたような気になったのであった。

ひと仕事を終えて再始動。ゲームルームは一階ロビー、何から始めようかと迷ってしまう。ジャックポットにブラックジャック、そしてバカラにルーレットと、所狭しとゲーム台が並ぶ。さっきのツキをどこで活かすか迷いながら、ルーレットにチャレンジ。赤黒勝負が俺流だと決めていたが、今回は



京谷社長(右)と筆者(左)

番号で行って見ようかな。最初は手堅く、そしてツキを確信したら攻めると何かのパンフレットに書いてあった事を思い出しながら張っていく。どうも当たらない。さっきのツキは何処いった。仕方ない。ツキのありそうな、おやじを見つけて相乗りするしかないか。おやじ頼むよ。張ってみた。当たるじゃないの。どうしてツキがそっちへいっちゃうの? 自戒を繰り返しながら、張りつづける。チップの出入りは一進一退。

一瞬の冴えも睡魔とともに停滞気味。時計を覗いて現実に帰る。午前3時か。明日の早朝は8時に朝食だったな。ここは一発最後の勝負と。赤黒勝負なら、負けても倍々で張っていけば理屈では必ず勝てる筈だ。さあ勝負。10ドル、20ドル、40ドル、勝てない。どうしたものか。さてここは最後の勝負80ドル、神様お願いだから当たってよ。ゼロゼロ。そんなのありかよ。参ったな。もう限界だから寝よう。

☆☆☆

ベットから落ちて目が覚めた私は、こんな夢を出発の前日に見た為に、カ

ジノを避け仕事に没頭せざるを得なかった。本当です。

さて、2月8日から11日迄の4日間、ラスベガスのコンベンションホールでARA SHOWが開催されました。代理店のマルティクイップ社では、例年通り前々日からのセールスマンミーティングを含めて140名の大部隊を率い、接客にのぞんでおりました。一昨年から全米で大ヒット商品となった分離給油ランマーを始めとして、特に注目されるのは、他社に先駆けて今年4サイクルランマーを前面に出していた事です。環境問題が懸念される昨今で、規制の緩い段階での市場の先取りを狙って積極的にPRしておりました。又、新型油圧ローラーMRH-800や中軽量



型前後進MVH-120及び150にも注目が集まりました。特に新製品の前後進コンパクターの発表により、100kg~500kg迄限なくレンジ化され、アスファルト舗装工事にも使える機種が加わる事で更に需要拡大に繋げる事が可能になったと喜ばれました。多様化する需要への速やかな対処が叫ばれる時代にマッチした商品として、大いに期待できるものと思われま。

滞在中に見たラスベガスの賑わいは、カジノの町としての発展だけでな

く、ホテルごとに種々のアトラクションを見せてくれるのも大なる魅力になっているのだなと実感致しました。同じ本物そっくりさんでも、日本では東武ワールドスクウェア、スペイン村、ハウステンボスであるのに対して、ラスベガスはその何百倍の大きさで作られており、大人と子供の違い程もあります。最近できたホテルベラジオで一時間ごとに行われている噴水ショーのすばらしさには、本当に驚かされました。建設中のエッフェル塔やら、何やらとそれぞれのホテルが競って、絶え間なく話題を提供してくれています。不景気に悩む日本と比べると、何と言う違いなのでしょう。カジノ、ショッピング、観光と全米、全世界から集まってきた人々が落とすキャッシュの力には本当に驚かされますが、大人の娯楽が徹底的に追求されています。

やはり、勝負する時にはどんと行かなければ儲からない、と噴水を見ながら変に納得させられました。日本にもこんな世界を作れないかなと改めて考えさせられてしまいます。

日本人が持つ賭博と言う暗いイメージを脱し、カジノ=娯楽と言う考え方ができるようになるのはいつの事でしょう。景気浮揚策があとで大きなツケとしてまわって来るのであれば、公営カジノを立法化してもらった方がずっといいような気がしてきます。おとなが楽しめるラスベガスは私にとって非常に新鮮なものであり、もう一度来たい、今度は家族と一緒に楽しみたいと言うのが正直な感想でした。

海外営業部一課 田島記

トークエッセー SUN・MON 社長の 日曜日 京谷弘也 TUE・WED・THU *NOW・NEWS・SAT・FRI*

寝転んでられない性分で、朝から動き回っていますね。だからといって手応えのある大仕事をするでもない。趣味の釣りに行かない日は、車を洗ったり買い物に行ったり、子供とインターネットの相手をしたりで、何ということなく一日が終わります。これでいいのか?…ちよっぴり反省心もあるけれどまあ、当座これが日曜日の憩いです。

『だんご三兄弟』がえらい人気のようですが、私の幼年の思い出にパービー人形があります。発売と同時にアメリカの少女たちの間で爆発的な人気を得て世界中に今も流行。いらい今年の3月で満四十歳になったようです。ちょうどこのニュースをラジオで聞き懐かしさと共に幼年時代の記憶がよみがえってきました。確かKENと言う名の弟(兄?)がいて父(現会長)の海外出張土産にねだったのを思い出します。男の子のくせに…と笑われるかな。二つ違いの姉

の影響でしょうが、雨の日など退屈まぎれに私を人形遊びの相手にさせたのでしょ。しかし人形は歳をとらなくてうらやましい。こちらは同世代ながらしっかり中年になってしまいました。子供は下の娘が今年小学一年生。親父の真似でインターネットを楽しんでいるけれど、操作を次々と覚える能力には驚きます。子供って頭脳がほんとにすなおで単純だからでしょう。その証拠に女房にはいくら教えても二日、三日するともう操作が怪しくなると立往生です。助けを求められると根気よく教えるのも日曜日の私の小さな快感かな…。一方娘はキーボードの使い方も覚え、最近はチャットにはまっています。誰と会話しているのか知らないけれどみんな相手が6歳の子供だって分かっているのかな? オーこわー!! 家は葉山の森戸海岸に近く、海と山に囲まれ風の通りがいい所です。だから裏の橋は風早橋と呼ばれています。ときには磯の香りも運ばれてくるし、どちらかと言うと風流心の少ない私ながら、四季それぞれの風物をそれなりに愛して?、実際よくマメに動き回ってハッピーホリデーをすごしています。

『元禄繚乱』から将軍綱吉を探る

NHK大河ドラマ『元禄繚乱』が始まって早い月。元禄という時代は歴史年表でいえば僅か16年間だが、文化史の面では館林城主・綱吉が五代将軍になった延宝八年(1680)から死去した宝永六年(1709)までの約三十年間をさす。つまり綱吉の時代ですね。ならば、ご当地館林では「われ等の殿様登板!」を喜んで鳴り物入りの応援宣伝、観光誘致に、地域振興にと大いに役立たせたいところだが、ところがどっこい、どうやら変調子。「われ等のヒーロー」はマウンドを踏んだとたんの悪投球、まるでバカ殿みたいな異常行動で、館林っ子を失望させたのではないだろうか。(何?どうでもいいさ…。それじゃ郷土愛が足りませんぞ)それがしは他国者ながらいささか首を傾けたり腹を立てたりして変化球の「綱吉像」に見入っておりますが、館林の市長はじめ市民の皆様はいかがでございましょうや。

さりとてこちら「綱吉の実像」を知るわけもない歴史研究者でもないのだから生意気は禁物。そこでいくらかオペンキョウのつもりで読書した。そのにわか勉強の成果を「三笠ニュース」に紙上レポート、皆様の興味が得られたら幸いです。

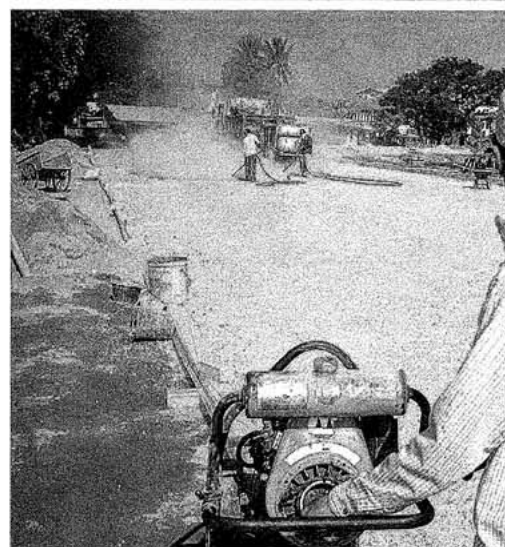
まずは人物辞典から大雑把に調べましょう。いや?…考えてみれば大河ドラマに付き物の便乗ムック本とやらが書店に山と積まれているはずで、皆様すでにお読みかもしれない。となれば今さらにも人物辞典など書き写

すなど愚行の極み。そう気がついて(ションボリ)キーボードの指は停止してしまいました。

昨年末だったか今年正月ころだったか、毎日新聞の書評欄に『黄門さまと犬公方』が取り上げられていた。著者は山室恭子という女流文学者(これ差別語ではないでしょうか?)で、評者の氏名は忘れたが、その批評文に著者が反論を投じたのである。かなりキツイお叱りだったようで、評者某は恐縮して後日の書評ページに弁解のような文章を書くはめになった。問題の論点は水戸黄門に関する著者の論旨の一部が、すでに三田村鳶魚の著述にあって著者のオリジナル説ではないと書評の中で指摘したことにある。これが著者にはカツンときた。彼女は黙ってられない。「私は三田村鳶魚の論考もちゃんと目を通してありますわよ」けれど、すべて確実な一級史料にしたがうことが歴史研究者の基本であり、俗書は無視する姿勢である…という趣旨での抗議だったようだ。

三田村鳶魚(みたむらえんぎょ・明治3~昭和27)は新聞記者から随筆家になって、おびただしい著作を残した。とくに江戸時代の歴史・風俗・文化に豊富な知識を書いた人である。しかし歴史学者からは「確かな史料を使っていない著述家」と批判されている人物。いっぽう山室女史は正当な学者としての自負があつてか、鳶魚の説には言及せず、だったのだ。

こうして水戸黄門に関しての奇妙な



“三笠”がある風景

【写真募集】“三笠”がある風景、または、あなたの写した自慢のスナップをお寄せ下さい。採用分には心こ

ラオスにて
撮影者・山田一郎様

(泰盛貿易)

めた記念品を贈呈します。宛先は本社総務部『ニュース』編集係。

論争はあったけれど、「犬公方」こと綱吉については実に面白く痛快な研究書である。ただし、著者がいう綱吉は「あんなポット出に将軍がつとまるのか…」という周囲の冷たい視線がプレッシャーだったとは、それは違うだろう。江戸将軍の座は能力よりも血筋で保証されており、座を脅かされる心配はなかった筈。ともあれ「われらの殿様」と親しみたい館林の人々には、絶好の読み物だと推薦しましょう。テレビに出てくる奇態なバカ殿・綱吉とはまさに月とスッポンの違い。実に「われらの殿様」は優れた為政者だった事が判りますよ。

とかく歴史、とくに人物の評価は難しいですな。近年しきりと問題になっている日本VS韓国の歴史認識で、迎合したりオロオロする日本側の態度の弱腰に不満を感じる人、感じない人、さまざまあろうけれど、共通した歴史認識を築く



ことがどれほどの国際親善に役立つものか、正直に言って判らない。政治上の交渉には確かにメリットがあるのだろうけれど、歴史学者まで本気になって取り組む問題ではなさそうだと思いますが、皆さんはどのように思召すやら…。

脱線御免なさい。この辺で『元禄繚乱』の将軍綱吉がなぜ「バカ殿」扱いで描かれたのか探ってみましょう。このドラマは昭和30年~40年頃の流行作家・故舟橋聖一の作品にもとづいている由だが、読んでいないから大きなことは言えません。館林の殿様が五代将軍になるに際して、これはお決まりの賛成派反対派がございました。反対派には老中で強い権力をふるっていた前橋藩主・酒井雅楽頭(うたのかみ)

忠清がいて、どうやら彼が館林の殿様のことを「天下を治めさせ給うべき御器量なし」と偉そうに口走ったらしいのである。いわゆる俗説で確かな根拠のない話とはいえ、ここらがバカ殿様の出所とみてよさそうです。なぜ大老酒井忠清は反対派だったか。真実などわかりっこないが多分心情的に気が向かなかったのだろう。仕えてきた四代将軍家綱が病弱になり、しかも世継ぎの子がないため、重臣たちは憂鬱に沈んでいた。そんな延宝八年五月の重臣会議で大老酒井忠清は、「京都に願ひ奉って有栖川宮幸仁親王をお世継ぎに迎えようではないか」と提案した。自分の権力維持に都合のいい将軍を据えたかったのだ。

鶴の一声、すんなり一同賛成と思いきや、前橋のお隣り安中城主・堀田備中守正俊さんが只一人で異議を唱えた。「正しい血統の館林宰相・綱吉様をさし置いて、他所から世継ぎを立てるのは如何でありましょうや…」

老中筆頭でしかも「下馬将軍」の異名まである権力者酒井雅楽頭に向かって意見を述べた勇敢な行為に、居並ぶ重役連中はポカーンと口をあけたままだったとか。その夜、堀田正俊は敏速行動をおこし、将軍家綱の病床で世継ぎの話をまとめたという。しかしこれも「一筋にイワク…」とか「その真実は知らずといえども…」の前提があつての話。まあ、歴史ってのは面白くもあり怪しくもありですな。

将軍綱吉の治世は、前代までと違って良い意味の独裁政治の復活とみられる。側近に柳沢吉保というキレ者を置いたのも独裁の方便だった。悪名高い「生類憐れみの令」は、今日の動物愛護の精神を法に定めたということで先見の明があつた。その運用面で行き過ぎがあつたから不評を買ったのだ。学問の奨励でも最大の功績を残した将軍であり、テレビの役者が演じるイメージとは全く違っていただろうと思うのです。えらい堅苦しい読み物になって御免ね。

